

事務事業	10004	親子食育講座事業	担当課	健康課	担当係	健康管理係
計後 画期 体計 系画	施策	05 子どもを安心して生み育てることができるまちをつくる	予算 科目	会計	1	一般会計
	取り組み方針	140 子育てに関する情報提供や相談・交流できる環境をつくる		款	4	衛生費
				項	1	保健衛生費
				目	5	食生活改善推進費
法令根拠条例等			個別計画	健康増進計画「健康しめ21」		
実施期間	<input type="checkbox"/> 30年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H22 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度～	年度

【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください)		<input type="checkbox"/> 2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる)
今まで自分の食事に関心がなかった方も、育児をすることで芽生えた子どもの食事に対する不安や悩みを解消すると同時に、親の食習慣が子どもへ影響を与えることなどを含め、親も食生活を見直すきっかけとすることを目的としている。また食生活改善推進委員(以下、食進会)の協力を得ることにより、世代間交流もでき、若い世代に活動を紹介する機会とする。		
【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください)		
町栄養士が講話、実習等、教室全般を担当。		
主 な 事 業 費 の 内 訳	託児委託料	81 千円
	消耗品費	32 千円
		千円
		千円

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 30年度に行った主な活動(※箇条書きで記入) 食育講座 (0歳児編)年2回、3回コース。 (幼児編)年1回、4回コース。	⇒	④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)					
		名称	単位	29年度	30年度	31年度	
		ア 食育講座回数	回	10	10	10 (見込)	
		イ 食生活改善推進委員協力人数(延べ)	人	4	4	4 (見込)	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) 幼児を持つ親	⇒	⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)					
		名称	単位	29年度	30年度	31年度	
		ア 未就学児童数	人	2,971	2,886	2,919 (見込)	
③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか) 子どもの食事に関心をもち、日々の食事に活かせる学習の場の提供と食進会の活動を 知り、若い世代の参加を促す。	⇒	⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)					
		名称	単位	29年度	30年度	31年度	
		ア 食育講座参加者数	人	目標	38	38	38
				実績	26	20	
		イ 食に対する意識の変化があった割合	%	目標	80.0	80.0	90.0
				実績	78.9	94.1	
		ウ 食進会の食育講話がわかりやすかった割合	%	目標	80.0	90.0	90.0
実績	95.8			100.0			
エ		目標					
オ		目標					

(2) 総事業費の推移

事 業 費	財源内訳(千円)		29年度 (決算値)	30年度 (当初予算)	30年度 (決算値)	31年度 (当初予算)	32年度 (計画)	33年度 (計画)	
	経 費	国・県支出金、地方債等							
		受益者負担等	37	33	25	33	33	33	
		一般財源	93	130	88	131	131	131	
		合計(A)	130	163	113	164	164	164	
		(内臨時・嘱託職員人件費)							
	正職員人件費[按分](B)	185	239	219	848				
トータルコスト(A)+(B)	315	402	332	1,012	164	164			

事務事業評価表(事業実施年度:平成30年度)

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を開始したきっかけは何ですか?いつ頃どんな経緯で開始されましたか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか?	③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか?(誰からの意見か明記)
平成17年度より、食育講座を子育て支援の一環として若い層へ食育を広げることを目的に母子保健の中で実施していたが、21年度から教室終了後も食進会の地域教室へとつなげることができるように食生活改善推進委員に協力をいただき、食生活改善事業として行う。幼児を持つお母さんの復職割合が高くなってきたので、平成27年度より0歳児編を設け、産休中に受講できる機会を設けた。	妊産婦の参加希望があり、子どもが小さい時に食に関心が高まることや仕事が出来ないことから参加につながっているように思われる。	教室最後には継続したいという要望が多く、託児もあることで参加しやすく、気分転換にもなるという声が多く聞かれる。子どもも何を作ったのか興味を示したり、習った料理を作ると喜んで子どもが食べたなど実際に教室を受講した手ごたえが見えて自信につながっているようです。

(4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

昨年度の事務事業評価結果		30年度の取り組み状況と今後の方針	
事業の方向性	平成30年度の取り組み概要及び期待される効果	実施状況	実施できなかった理由と今後の方針
<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	0歳児親子教室終了後が丁度対象月齢のお子さんをお持ちの方が多くもあり、0歳児親子教室時に案内をし、参加者の安定を図りたいと考えます。	<input checked="" type="checkbox"/> 記述どおり実施できた (コメント必要ありません) <input type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→)	

2 評価(SEE)及び全体総括の部 * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1) 評価

	評価の理由
目的妥当性評価 ① 上位施策への貢献度は大きいですか? ※総合計画を参照してください <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→)	子育てをする上で食に関する悩みは大きく、それを相談し、解消できる機会となっている。また、地域にいる食進会の方と交流することで地域で親子が参加できる教室などへつながりを持つことが出来る。
② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか? (事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか?) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→)	核家族が多く、調理経験の少ない母親にとって、気軽に相談できる場として、この教室が活用されることは子どもを安心して育てる子育て支援になっていると思われる。
有効性評価 ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がある(理由→) <input type="checkbox"/> 成果向上余地がない(理由→)	募集方法を変えたりしながら参加人数を増やす努力をしているが回によって参加者が増減する。原因がわからず、効果的な募集方法を検討する必要があると思います。
評価 ④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→)	小さいお子さんを持つ親を対象とした料理教室は他になく、料理だけでなく子どもの食の悩みなどを聴きながら、悩みや要望に対応できる教室はない。
効率性評価 ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか?(広域連携や民間委託等の導入など) <input type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input checked="" type="checkbox"/> ない(理由→)	町栄養士が1名で従事しており、託児も生涯学習館の託児室を利用したり、託児室利用対象でない0歳児は保健センターで委託などしている。材料費の一部徴収については材料費の8割以上を賅っている。また、託児料についても徴収することにしたが負担割合については経過を見ながら検討していくが当面は現状維持を考えている。

(2) 30年度を振り返って(全体総括・反省点)

0歳児食育講座は0歳児親子教室からの流れができ、教室を開催するのに丁度よい受講人数になっている反面、幼児編が母親の職場復帰される方が多くもあり、受講者が減っている。必要性は感じられるものの、今後の教室開催については動向をみながら検討する必要がある。
--

3 今後の方向性(31年度以降の計画と32年度予算への反映)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) <input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→ <input type="checkbox"/> 事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	(2) 平成31年度以降に取り組む内容と期待される効果 募集方法を変えたりしながら参加人数を増やす努力をしているが回によって参加者が増減する。原因がわからないため、効果的な募集方法を検討していく。
---	--